



## カジノ健康保養システム

徳島カジノ研究会 中西昭憲

7月終わりに徳島県知事に「徳島カジノ研究会」の発足と今後の展開について報告させて頂いた時「地域の活性化や明るさをとりもどす為には「にぎわい」という要素が必要。大変有意義なことなので、今後ともよろしく」というご返事を頂いた。

8月の終わりに日本カジノ学会主催の「国際CASINO&ENTERTAINMENTフェア Japan」の第一回発足記念パーティーが開催され、室伏理事長が日本カジノ学会の足跡と多岐に渡る素晴らしい新産業の展望を話された。翌日には、カジノ議連会長の野田聖子氏が、来年の通常国会に「カジノ法案(仮称)」を提出し、法案が通過する可能性が極めて高いことを、珠洲市で開催された第一回日本カジノ創設サミットで報告された。

また9月には谷岡会長主催の第一回キャンピング・ゲーミング学会が開かれ、カジノ発足前夜祭のような様相を呈し始めている。珠洲市のカジノサミットでは、パネラーから「地域の活性化としてカジノを設置したい」という主旨が多かった。具体的に街づくりの提案をしたのは「徳島県カジノ研究会」のドイツバーデン・バーデンを参考にした「カジノ健康保養システム」だけであった。

バーデン・バーデンを訪れると、カジノがどこに有るのか判らない。ひっそりと荘厳な雰囲気の中で静かに開かれているのである。



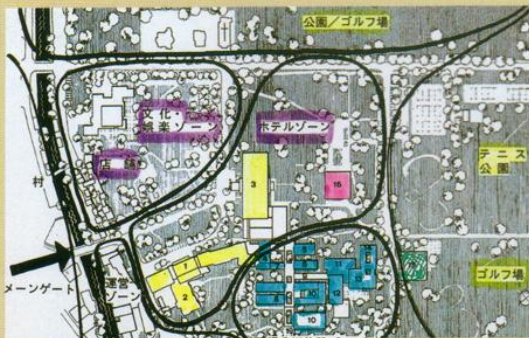
バーデン・バーデンのカジノ

平成8年度、建設省は運輸・農林水産業の共同事業に海と山の緑の健康地域「健康海岸」の推進」として予算を要求していた。丁度この頃徳島県では空港拡大に伴う徳島空港周辺整備基本計画調査委員会が発足し私はその委員となった。この会で海岸療法を核とした健康海岸を提案した。海洋療法とカジノが共存し溢れる街のモデルとして、モンテカルロのテルメ・マリン・ド・モンテカルノを紹介し、健康海岸について「健康海岸・海洋療法事始め」として徳島県医師会報に1年余に渡って連載した。

### 「カジノ健康保養システム」

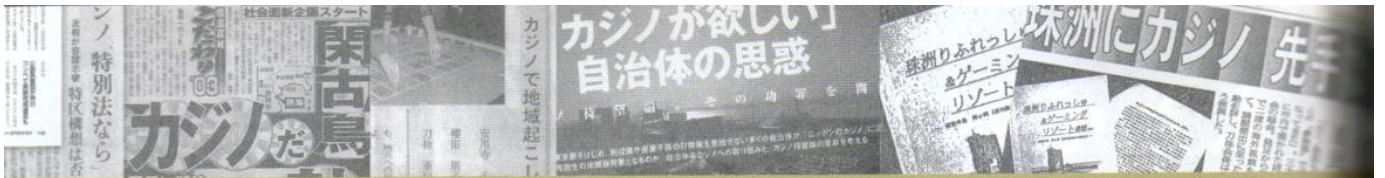
本誌vol・2で鳴門にカジノが出来た

時の楽しさについて触れたが、今回はスイスの保養センターの取り組みを脳裏に浮かべながら、さらに空港周辺整備計画で予定されている海浜公園の中にカジノを取り組んだイメージを想像し、今後の地域密着型チのカジノシステムのひとつとして提案するものである。図の番号16が「カジノ・バー」である。このカジノを取り囲むようにホテル・診療部門・公園・ゴルフ場・さらに文化娯楽と店舗がある。保養センターは、10ヘクタールを超える敷地に計画され、その規模に驚かされる。



スイスのバート・ガルツ保養センターの全体計画図  
(ヨーロッパの温泉保養地 オットー・グラウス著 集英社1987)

ドイツのバーデン・バーデンは、クアールトとして既に整備され国内外



も過言ではないほどカジノが地域に貢献している。振り返って日本の「クアハウス」を訪れると田舎の片隅に設けられていることが多く、料理は不味く生活が単調で滞在に飽きてしまうことが多い。「仏作って魂入れず」である。

何とか療養が楽しくなるような温浴施設を考えているが、単独では無理で地域の活性と元気になるシステムがなければ施設の維持が難しい。ところがにわかにか지노の記事が散見するこの頃になった。

そこで徳島という大都市では、一般にか지노から連想するラスベガスのような大規模か지노はその目的と規模が合わないため、ドイツの温泉保養地のようなこじんまりと地域に密着しているか지노をモデルとして考えることにした。

### ③ 鳴門か지노健康保養社会の実現に向けて

か지노健康保養社会候補地として、観光名所として知名度が高く交通の要所、さらに周辺に適当な教育・文化施設や高度医療施設・風光明媚の地として数々の要素を含む「鳴門」を選んだ。

ここ鳴門はお遍路の出発点として「お遍路口」があり、近くには清少納言の終焉の地として「尼塚」や紀貫之の土佐日記にでてくる「土佐泊」という地名があるなど歴史的に面白い物をもっている。

また鳴門教育大学やルネッサンスホテルは、国際会議の場として活用が考えられ、近くの美術館や鳥居龍三記念館記念館はその価値と共に絶景の景色を提供してくれる。さらに鳴門健康保険病院は滞在中に高度な健康検査が受

けられる、という利便性を提供してくれる。

鳴門は変化に富んだ海岸線を持っていることから、その特質を活用するとクアパークとしてすぐにも利用できる。このような数々の要素は、充分生かされていくとは思えない。しかしドイツのようにか지노収益が直接地域の整備に使われ、か지노を核とした滞在ブラ



鳴門ウチノ海  
内海のための年余を通じて穏やかである。釣りのメッカである

ンは、地域全体の活性化につながるものと考えられる。

ウチノ海は、字の如く内海のため海が静かである。ここに海洋療法（タランテラピー）・イルカ療法等が開設されると全国から療法を求めて滞在するのではないかと考えられる。さらにイメージを広げると、鳴門ワカメを活用したエステや美容、勿論鳴門鯛に代表さ

れる海浜食材や徳島の野菜・果物類が新鮮で美味しい名物料理として人気を得るものと思われる。

### 鳴門か지노健康保養社会の要点

- ① 四国の玄関口として大鳴門橋・高速道があり全国的に知名度がある。後方の鳴門市としての人口があるため日々の利用が見込まれる。
- ② 海岸に面しているため海水を活用したタランテラピー・イルカ療法が出来る。海水を温めればNa<sup>+</sup>塩化物泉として温泉と同じ効果が得られる。
- ③ 鳴門の渦、阿波踊り、お遍路、尼塚、土佐泊、鳥居龍三記念館、大塚国際美術館、鳴門ウチノ海総合公園等は、滞在者にとって日々の彩りになる。
- ④ 鳴門教育大学、ルネッサンスホテル等は、国際学会開場の場となる。
- ⑤ 鳴門鯛、鳴門ワカメ、金時いも、レンコン、スタチ等の野菜・果実等は、地方のオリジナル料理の食材となる。
- ⑥ 鳴門健康保険病院は、滞在者に人間ドックの機能を付与することができる。
- ⑦ 吉川英治の「鳴門秘帖」、阿波の写楽等は、イラストやお土産に活用出来る。

以上の要素を組み合わせる活用することによって魅力有る地域に生まれ変わる可能性があり、これらを生かす促進剤としてか지노とその収益が役立つものと考えられる。今後より具体的な候補地を鳴門地区の中で絞り込み熟度を高めることにしている。

折も折、奥田碩（日経連）会長が「沖縄と四国にか지노を」という誠に有難い発言を洩れ聞き、小躍りして徳島か지노実現を夢みる今日この頃である。